

はんだ山の風



新入職
看護職員

日々の出会いを大切に、
看護師としても人としても成長し続けます。

Contents

P2 新任教授のごあいさつ 外科学第一講座 教授 岡本 一真

P3 診療科紹介「心臓血管外科」

P4 デジタル時代の疲労～VDT症候群とは何か。その予防と対策

リハビリテーション科 教授 山内 克哉
リハビリテーション部 技士長 浅井 聡

P6 看護部「入院が決まったら……。安心して入院生活が送れるように
さまざまな職種が入院前に支援します ——メディカルサポートエリア」

P8 中庭活用プロジェクト報告

中庭活用プロジェクトチーム

P9 退職のごあいさつ

「退任を迎えて、皆さまへ感謝」周産母子センター センター長 産婦人科学講座 教授 伊東 宏晃
「お世話になりました —— 浜松医大の思い出」 眼科学講座 准教授 佐藤 美保
「最高の勲章」 神経・難病センター 副センター長／免疫・リウマチ内科 病院准教授 小川 法良
「これからも血液浄化療法部と栄養部へのご支援をお願いします」

血液浄化療法部・栄養部 部長 加藤 明彦
泌尿器科学講座 准教授 大塚 篤史
下部消化管外科 病院准教授 倉地 清隆

「お世話になりました！」

「“Stay hungry, Stay foolish”」

P12 浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内(第46・47・48回) 医療福祉支援センター地域連携室

P12 イベントレポート 2/2(日) 令和6年度 原子力災害医療防災訓練
2/15(土) 令和6年度 アレルギー週間市民公開講座



当院は日本医療機能
評価機構認定病院です。
(一般病院3)

病院紹介動画は
こちらから



外科学第一講座 教授 岡本 一真



令和6年(2024年)11月から外科学第一講座教授としてお世話になっております、岡本一真です。皆さまには平素より多大なるご支援とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

外科学第一講座は、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、一般内視鏡外科の各診療科を専門とするメンバーで構成され、それぞれ高度な診療と研究、教育に邁進しています。各診療科の専門性を活かして最新の技術と知識を駆使するとともに、講座内外の診療科との緊密な連携により、地域を代表する外科チームとしてアクティビティを向上し続けられるように努めてまいります。

私は、平成11年(1999年)に慶應義塾大学を卒業しました。学生時代はラグビー6割、アルバイト2割、遊び1.5割、学業0.5割といったエフォート配分でした。しかし、6年生の夏休みの全てをブラジル、コロンビア、メキシコ、グアテマラでのアマゾン探検および南米での医療研修に費やした結果、ようやく医療人としての自覚が芽生え、外科医を志すことになりました。また、神戸で中高生時代を過ごしたこともあり、平成7年(1995年)の阪神淡路大震災がキャリア選択に少なからず影響したとは思っています。

卒業後は外科、心臓血管外科修練に全力投球しました。栃木県、茨城県での断れない救急医療で鍛えられ、ベルギー、イタリア、タイでの手術修練を経て、これまで、心臓血管外科の診療・研究・教育に従事してまいりました。診療面では冠動脈バイパス術、大動脈疾患の手術、心臓弁膜症手術など成人心臓血管外科手術を中心に取り組んでまいりました。なかでも、胸腔鏡下心臓手術(MICS)、ロボット支援下心臓手術、経カテーテル大動脈弁留置(TAVI)といった低侵襲心臓血管治療をライフワークとしてきました。患者さんへの負担を軽減しつつ、より高度な心臓血管外科治療が提供できる低侵襲心臓血管治療拠点として本院の診療を充実してまいります。

本学心臓血管外科は、長年にわたり大動脈手術において輝かしい成果を上げ、国際的な名声を得てきた診療科です。新しい分野である低侵襲心臓血管治療を付加することで、病院のブランディングに寄与します。また、未来を担う若手医師の育成や学生教育にも尽力し、科学的思考を持ちつつ倫理観の高い医療人の育成に励んでまいります。

約350万人の人口を抱える静岡県全体の外科医療の充実が、我々の重要な課題です。心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、一般内視鏡外科の各診療科だけでなく、外科学第二講座とも連携し、本学外科が県における外科医療の核となるように体制を構築してまいります。折しも、本学は、浜松市(浜松医療センター)と地域医療連携推進法人を設立し、人材養成や医療におけるプラットフォームの共通化を強力に進めることが予定されています。外科におきましても、二つの基幹病院のシームレスな連携を成功させ、県全体におけるサステイナブルな外科診療を構築する試金石としたいと思います。

外科医療は、多職種メンバーが一体となりタスクシフトしながらでないとは前進できないチームスポーツです。患者さんを中心におき、メンバーが一丸となって患者さんの幸せのために動く、明るいチーム作りを実現したいと思います。どうぞ皆さまの変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



外科学第一講座 集合写真

診療科 紹介

心臓血管外科



心臓血管外科では、心臓と血管の病気について総合的に診療を行っています。循環器内科や麻酔科蘇生科を中心とした診療科や、看護部、医療機器管理部などの多職種・他部門からなる「ハートチーム」で緊密な連携をとって治療方針を策定し、外科的な手術治療を要する場合は心臓血管外科で治療を行います。

心臓の病気には、弁膜症(僧帽弁閉鎖不全症や大動脈弁狭窄症など)と冠動脈疾患(狭心症や心筋梗塞など)、また、不整脈(心房細動など)や心臓腫瘍(左房粘液腫など)が含まれます。心臓手術では胸骨正中切開アプローチによる開心術が基本ですが、近年では手術用内視鏡を用い小切開でアプローチする胸腔鏡下心臓手術が普及しており、本院におきましてもこの方法を積極的に採用しています。患者さんには、早期回復・早期社会復帰、整容面での満足といったメリットを享受していただける治療法です。手術支援ロボットダビンチを用いた心臓手術も開始しておりますので患者さんのニーズをよく伺い、治療効果や安全性を十分加味しつつ、患者さんに適した治療法を選択しています。心房細動のような不整脈に対する外科治療および塞栓症を予防する手術にもこの内視鏡下手術を適応しています。冠動脈疾患に対しては冠動脈バイパス手術を行い、長期的なバイパスの開存性を最大に高めるための工夫を取り入れております。

血管の病気には大動脈瘤(胸部・腹部)や大動脈

解離(急性・慢性)といった病気があります。なかでも急性大動脈解離は一刻を争う病気で、発症から数時間以内に手術しなければなりません。本院では24時間365日いつでも手術が開始でき、浜松市および周辺自治体にお住まいの皆さんの命を守る体制を整えております。大動脈瘤や慢性大動脈解離は、一定の動脈瘤径に達すると大動脈破裂や急性大動脈解離といった生命に直結する事態が起こる確率が高くなる病気です。このようなイベントが起きるまでは痛みのような症状が出るのが少ない病気ですが、定期的なCT検査を中心に適切に診療を継続し、適切なタイミングでの手術加療が大切です。この分野においても大動脈ステントグラフト留置という胸やお腹を開かないカテーテル治療を積極的に取り入れています。

今後もさまざまな心臓血管治療における低侵襲治療を軸に、患者さんに適した治療法を提案し続けることで皆さまの健康に貢献してまいりますので、ご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



胸腔鏡下心臓手術(MICS)

右胸部に5cm程の小切開をおき、内視鏡下で手術操作を行います。胸骨を温存できるので、整容面で有利かつ術後の回復が迅速です。主に僧帽弁形成術、大動脈弁置換術、冠動脈バイパス手術が対象となります。



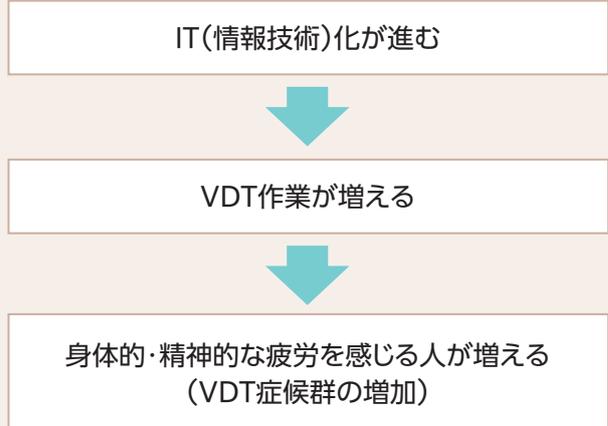
ダビンチ心臓手術

手術支援ロボットダビンチは内視鏡下アプローチでの手術となるため、MICSよりもさらに小さい創での精細な手術が可能です。主に僧帽弁形成術が対象となります。



デジタル時代の疲労 ～VDT症候群とは何か。

スマホやタブレット、パソコンが欠かせない現代。ディスプレイ画面に向かって行う作業をVDT (Vidual Display Terminals) 作業と言います。ついつい長時間使用してしまい「眼精疲労が気になる」「頭痛や肩こりに悩んでいる」という方も多いのではないでしょうか。しかし「仕方ないから」で済ませていませんか？ もしかしたらそれは「VDT症候群」かもしれません。VDT症候群とは、パソコンやスマホの画面を長時間見ることにより、眼や身体、心に影響を及ぼす病気です。今回は、VDT症候群の症状や特徴、セルフチェックや治療法(特に運動)について解説します。



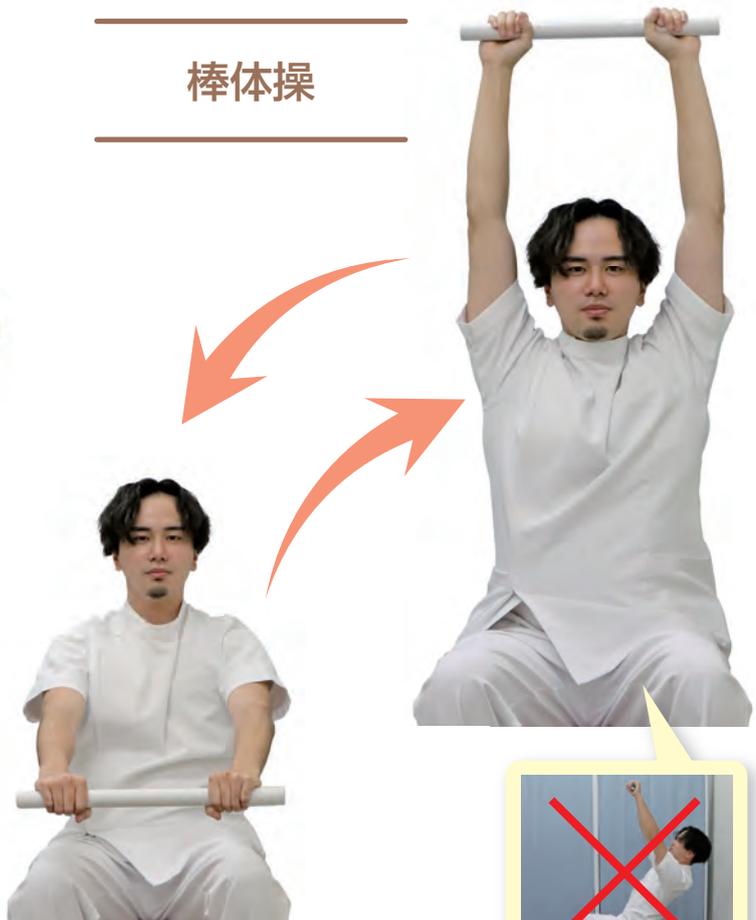
肩の体操



両肩に手を添え、内側から外側へ、両ひじを胸の前でつけるくらいに大きな円を描くように回します。肩ではなく、肩甲骨を意識して大きく運動をします。

座りながら簡単な運動・ストレッチをご紹介します！

棒体操



棒を肩幅に持ち、棒を上げ下げさせます。肩周りではなく、背中に力が入るように、行います。右の写真のように、のけ反らないように注意して行います。



その予防と対策

リハビリテーション科 教授 山内 克哉
リハビリテーション部 技士長 浅井 聡

VDT症候群でよくみられる症状は以下のものです。

| | |
|------------|----------------------------|
| 眼の症状 | 痛み、眼精疲労、ドライアイ、視力低下など |
| 身体(肩・首)の症状 | 首や肩のこり、痛み、しびれなど |
| 心(精神的)症状 | 疲労感、いらいら、不眠、メンタル不調、憂鬱な気分など |

VDT症候群の主な原因

パソコン画面などを長時間見続けることによるブルーライトへの暴露や、同じ姿勢で居続けることによる血行不良があります。パソコンを集中的に見

続けると、目の乾きなどの眼症状を引き起こし、結果的に身体全体や精神的な症状につながる事がわかっています。このようなサイクルで症状が起こるので、眼症状がとくに多いと言えるでしょう。

VDT症候群の治し方

眼科で目薬を処方してもらうなどの方法がありますが、予防の運動もあります。

VDT症候群の予防方法

- 作業環境(よい姿勢や机やいすの高さ)の改善や作業管理の改善が大切です。
- VDT作業の前後、または作業中でのストレッチなどの軽い運動は、身体をほぐすことができ、血流もよくなるため、VDT症候群の予防に最適です。

首のストレッチ



少し上を向きながら、ゆっくりと左右に倒します。少し伸びた状態で5~10秒ゆっくり数えて止めてください。

ちなみに...



別の首のストレッチをご紹介します。肩こり原因の一つである僧帽筋に対するストレッチは首を左右どちらかに向け、下を見て、手を頭に添えてストレッチします。また、ストレッチしていない方向の手(右に向くときは左手)は腰に回してください。

VDT症候群の主な原因



VDT症候群は複数の要因が絡み合って起こり、要因のひとつが姿勢の悪さです。パソコン作業を行う時に背中が丸くなる、反り返る、浅く座る、足を組み続けるなど、姿勢が悪い状態が続くと症状の悪化につながります。

VDT症候群のセルフチェック

パソコン作業の環境が適切か、眼や身体の症状で不調がないかをチェック項目で確認してみましょう。ひとつでも当てはまればVDT症候群の可能性があり、当てはまるものが多いほど重症である可能性があります。作業環境や症状を振り返ってみよう。

パソコン作業の環境について

- パソコンを1時間以上使用している
- パソコンの画面に照明や日光が入り込んでいる
- 部屋全体の明るさと手元の明るさが違う
- 作業スペースにゆとりがない状態である
- 不自然な姿勢になっている
- 同時に複数の作業を取り扱っている

症状について

- 眼症状…疲労、ぼやける、乾く、充血している
- 頭症状…重い、痛い
- 胃腸症状…食欲がない、不調である
- 首・肩・背中症状…重い、痛い
- 腰・足症状…だるい、冷えている
- その他…疲れがなかなかとれない、熟睡できない、意欲の低下

入院が決まったら.....。

安心して入院生活を送れるようにさまざまな職



本院では、入院が決まったらメディカルサポートエリアで入院申し込みの手続きや看護師による面談を行っています。病気・治療への思いや入院前の生活などについてお話をうかがい、その不安を少しでも和らげ、安心して入院生活を送ることができるように、入院前から外来・病棟間で看護師をはじめ、薬剤師、管理栄養士、事務職員、医療ソーシャルワーカーなど多分野の専門職が連携して、患者さんを支援できる体制を整えています。

予定入院の患者さんはメディカルサポートエリアにご案内します。事務職員が入院日や入院予定の診療科を確認し、入院のしおりに沿って入院生活や入院までに準備する書類などについて説明を行います。また、固形物や水分を飲み込む機能や体重などから栄養状態を評価し、必要に応じて早期からの栄養サポートが受けられるように準備します。看護師による面談では、病歴の聞き取りや治療方針の確認、自宅での生活の様子についてなどのお話をうかがい、入院後継続してほしいことや注意が必要なことは病棟に伝えます。

食べ物や薬剤などのアレルギーや、日常使用している内服薬やサプリメントが治療に影響を与えないか、栄養士や薬剤師にも情報が提供されます。

情報を聞くだけでなく、入院中に起こることが予

想されるさまざまなリスクに対応できるように、入院前から準備を行うよう説明をします。例えば、手術を受ける患者さんには禁煙や呼吸法について、がん化学療法のために入院する患者さんには、副作用や治療上の注意点について、入院による環境変化で起こる「せん妄」の説明や予防のための準備についてなど、パンフレットを用いて説明しています。

看護面談は待ち時間が少ないように予約制をとっています。入院までに来院予定がない場合は、当日の対応も可能ですが、少し時間を置くことで、病気や治療に対する疑問が生じたり、状況の受け止めが変わったりすることがあります。来院予定がなくても、看護面談のために来院することで不安の解消につながることもあり、「来てよかった」と言ってくれる患者さんもいらっしゃいます。

現在、本院の平均在院日数は10日程度です。必要最小限の入院日数で検査や治療が行われます。入院までを自宅でどのように過ごすのが重要となり、治療の準備は入院前から始まります。メディカルサポートエリアでの入院前からの多職種のかかわりが、入院生活を支えることにつながります。

メディカルサポートエリアのスタッフ一同が、患者さんに安心・安全な入院生活を送っていただけるよう支援します。

種が入院前に支援します ————メディカルサポートエリア



メディカル・サポート・センター
Medical Support Area

中庭活用プロジェクト報告

中庭活用プロジェクトチーム

患者さんに院内で少しでも快適に過ごしてもらいたい、また本院のスタッフにも日頃の疲れを癒してもらいたいという思いから松山病院長が令和5年(2023年)に「誰もが癒される病院に | 中庭の再整備とプロジェクションマッピングを！」としてクラウドファンディングを立ち上げて、18,526,720円のご支援をいただきました。それにより令和6年(2024年)に外来棟中庭の再整備を行い、休憩スペースとしてイスとテーブル、オーニング(日よけ)を置

き、さらにプロジェクターを設置いたしました。

綺麗に整備された中庭を多くの方に活用していただくために、「中庭活用プロジェクトチーム」が発足し、令和6年(2024年)7月から定期的にイベントを開催しております。

暖かくなってきたら、地域の皆さまや学生と一緒にマルシェなども予定しています。外来、入院患者さんや病院関係者もぜひ中庭へお立ち寄りいただき、憩いのひとときをお過ごしください。

2024年度実績(一部抜粋)

沖縄エイサー演舞



8月:浜松市で活動している創作太鼓童衆 希宝さんに沖縄エイサー演舞を披露していただきました。本学ボランティアサークル四つ葉の学生が、病院の緊張感を少しでも和らげるようにと企画しました。

秋の防災イベント



10月:本学地域創成防災支援人材教育センター(R-CEC)が開催し、DMATの活動展示、被災後48時間以内にトイレ・キッチン・ベッドを整備する「TKB48」の紹介を通じ、災害への備えを考える機会となりました。

クリスマスコンサート



12月:本学学生管弦楽団によるクリスマスコンサートを開催し、弦楽やオーケストラの演奏に観客は耳を傾けました。紙のスタンドグラス「Rose Windows」の配布と学生カフェも同時開催しました。

獅子舞演舞・和太鼓演奏



1月:有玉獅子舞保存会の皆さまが、患者さんやご家族、学生や職員の健康と笑顔を願い、獅子舞と和太鼓の演奏を披露し、演舞後には獅子が頭を噛み、厄除けや健康を祈願する人の長い列ができました。



イベント募集

病院中庭でイベントをしてくださる方を募集しています。右記のフォームからお気軽にお問い合わせください。(布教活動、勧誘行為はできません。)



退任を迎えて、皆さまへ感謝

周産母子センター センター長 産婦人科学講座 教授 伊東 宏晃

令和7年(2025年)3月末に定年退任を迎えました。平成20年(2008年)7月に本学へ講師として採用していただきました時に、金山尚裕教授と故寺尾俊彦学長のあふれんばかりの笑顔を見、私はこの地で新たな世界へ飛び立つことができるかもしれないと強く感じました。以来、約18年あっという間に全力で駆け抜けてまいりました。多大なるお力添えをいただきました同門の先生方をはじめ、多くの院内外・学内外の皆さま方に心から感謝申し上げます。

産婦人科教室の臨床で思い出に残ることは、外来棟・新病棟移転、先端医療センター建設による周産母子センターの拡張・改修、胎盤病理カンファレンスの導入、コロナ禍の対応、無痛分娩の導入、ロボット手術の導入などが思い浮かびます。

退任後は藤枝市立総合病院の顧問(周産期担当)として、志太榛原地区の周産期医療に携わる機会をいただく予定であります。これまで約40年にわたり周産期医療にこだわって生きてまいりましたので、生ある限り「産科医」として生き抜いていきたいと希望しております。

四半世紀を越えて取り組んできた研究テーマは、胎児の出生後の長期的な健康予後Developmental

Origins of Health and Disease(DOHaD)であります。退任後の令和9年(2027年)10月17~20日に第14回国際DOHaD学会をアクトシティ浜松にて開催いたします。この学会を盛会に開催することを目標に、引き続き研究活動にも精進してまいりたいと希望しております。

私の退任により、産婦人科教室は新たな体制として生まれ変わり、次世代を担う若い先生方が大空へ羽ばたきます。皆さま方におかれましては、引き続き産婦人科教室へのご支援、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

皆さまへ万感の感謝を込めて。

(※令和7年3月退官時の職名で掲載させていただいております)



令和6年(2024年)産婦人科教室の新年会

お世話になりました —— 浜松医大の思い出

眼科学講座 准教授 佐藤 美保

私は平成14年(2002年)7月に名古屋大学から本学に着任しました。当時の大学周辺は大変自然豊かでした。在職中にさまざまな変革がありましたが、今でもたまにキャンパスでカモシカを見かけるほどよい環境にあると思っています。浜松市はいつの間にか「餃子の街」となり、大学前にスターバックスができ、駅から遠いことを除けば大変住み心地がよいお洒落な街となりました。

一番苦しかったのは、平成16年(2004年)に初期臨床研修システムが導入された後です。眼科が初期研修の必修科ではなくなったので、学生時代に眼科に興味を持った人も研修の間に他科に気持ちが変わってしまうのです。当時は全国的に眼科専攻医不足に陥りましたが、当教室でも4年間新入医局員がいないという危機的な状況に陥りました。その教訓から、どうやって学生にアピールするか、研修医が来ない二年間、いかに眼科の魅力を伝えつづけるか、に医局員一丸となって努力したのを記憶しております。それが功を奏して少しずつですが新人が来るようになりました。

私の専門は小児眼科、斜視・弱視という眼科のなかでも極めて特殊な部門ですが、着任してから、3つの全国学会(眼科ME学会、日本弱視斜視学会、日本小児

眼科学会)、ひとつの国際学会(国際斜視学会)を主催させていただきましたことができました。また国内外から小児眼科のフェローを多数迎えることができ、本院で研修を受けた小児眼科医が全国で活躍しているのをうれしく思っています。

令和7年(2025年)4月からは小児眼科医が不足しているいくつかの施設で診療や指導をしながら、自分の時間も大切に過ごしていくつもりです。皆さまには大変お世話になり、ありがとうございました。

(※令和7年3月退官時の職名で掲載させていただいております)



平成18年(2006年)6月、日本弱視斜視学会会長 浜松招宴にて

最高の勲章

神経・難病センター 副センター長
免疫・リウマチ内科 病院准教授 小川 法良



医学研究者になりたかった私は、本学の第6期生として昭和54年(1979年)4月に入学しました。当時の浜松医大は林に囲まれ、住宅はまばらで立体駐車場はなく、ほとんどの駐車場は未舗装というそんな時代でした。

昭和60年(1985年)3月に卒業、第三内科に入局し本院で研修を開始しました。大学院卒業後、英語圏に留学を希望し、できたての博士論文を同封して世界中の大学や研究機関に、ポストドクター^{※注}として雇ってほしい旨の依頼状を添えて送りました。自己免疫疾患の世界的権威であるテキサス大学サンアントニオ校のNorman Talal教授より承諾の返事があり、3年間の米国留学を経験しました。

医学研究をして多くの患者さんを救うことが自分の使命と考えていた私は、研究を続ける道を選んできました。実際には、臨床に直ちに役立つような研究成果が出ることは稀で、どんな研究成果でも英語論文として公表すれば、医学の発展に貢献できることを実感しました。他の研究者が自分の論文を引用してくれることは大きな喜びであり、米国の権威あるTextbook of Rheumatologyに自分の論文が引用されたときは大変うれしかったです。

大学病院は患者さんにとっていわば最後の砦であり、そこで働く医師には高い倫理観が必要で大きな責任が

ともないます。今では、目の前の患者さんをしっかりと診療できないような医師には、人間味のある優れた研究ができないのではないかと考えるようになりました。退職のお話をしたところ、多くの患者さんよりお礼やもっと診てほしかったというお言葉を頂戴しました。これは一人一人の患者さんに真摯に向き合ってきた証であり、私にとっては最高の勲章であると思っています。

※注 大学院で修士課程を修了した後に、教授、助教など正規のポストではなく、任期付きの職に就いている研究員

(※令和7年3月退官時の職名で掲載させていただいております)



令和5年(2023年)9月22日、23日、アクトシティ浜松において開催された第31回日本シェーグレン症候群学会にて免疫・リウマチ内科スタッフと

これからも血液浄化療法部と栄養部へのご支援をお願いします

血液浄化療法部・栄養部 部長 加藤 明彦



このたび、令和7年(2025年)3月末をもちまして、本学を定年退職することとなりました。平成17年(2005年)2月に静岡県立静岡がんセンター腎・内分泌・代謝科から赴任して以来、20年余にわたって血液浄化療法部と栄養部を担当させていただきましました。私どもを信頼いただいた患者さん、いつも支えてくださったスタッフの皆さま、そして診療・教育・研究・学会活動と一緒に携わった多くの仲間たちに、この場を借りてあらためてお礼を申し上げます。

血液浄化療法部では各診療科との連携を通じて、多くの患者さんを紹介いただきました。おかげさまで、国立大学附属病院血液浄化部門では常に血液浄化総件数が上位10位以内に入っています。その他、静岡県庁健康福祉部と静岡県腎友会と連携し、静岡県の災害時透析ネットワークの設立にも尽力することができました。

栄養部では平成17年(2005年)4月の発足当時より副部長、さらには平成24年(2012年)から部長として活動させていただきました。平成21年(2009年)12月には新病棟稼働を機に病棟の各フロアへサテライトキッチンが設置され、できたての食事を適温で提供できるようになりました。さらに、管理栄養士がカンファレンスや診療チームに参加するようになり、各診療科との連携がますます深化し

ています。これからは、こうした管理栄養士による積極的な食事・栄養支援が患者さんの臨床的アウトカムにどう影響するのか、本院でもきちんとした検証が必要と考えています。

最後になりますが、この20年間大きなインシデントもなく、皆さまのサポートで血液浄化療法部と栄養部の両輪で仕事できたことは、大変に幸運なことでした。これからも、血液浄化療法部と栄養部に温かいご支援をいただくと幸いです。

(※令和7年3月退官時の職名で掲載させていただいております)



はんだ山の風第5号(2011年秋発刊)「NSTの活動について」より

お世話になりました！

泌尿器科学講座 准教授 大塚 篤史

時が経つのは本当に早いものですね。平成15年(2003年)7月に本学に戻り、22年余りを泌尿器科学講座で過ごさせていただきました。

大園誠一郎教授のご指導のもと、下部尿路機能障害に関する研究・診療に携わるようになり、前立腺肥大症・腹圧性尿失禁・過活動膀胱・神経因性膀胱・骨盤臓器脱・間質性膀胱炎など多岐に渡る疾患の新規診断・治療法やエビデンスの確立に取り組んできました。特に、新規過活動膀胱治療薬($\beta 3$ アドレナリン受容体作動薬)の開発と特許取得に関わられたこと、 $\beta 3$ アドレナリン受容体作動薬の有用性を示す前向き多施設共同研究を達成できたこと、間質性膀胱炎に対するジメチルスルホキシド維持膀胱内注入療法の可能性を証明できたこと、診断法が確立していない間質性膀胱炎の新規尿中バイオマーカーを見出し特許出願できたことは、私にとってよい思い出となりました。

また、三宅秀明教授のご指導のもと、ロボット支援手術の立ち上げ当初から関わらせていただき、新規手術の導入から術式の改良や後進の指導にいたるまで、さまざまな刺激的かつ有意義な経験を積ませていただきました。「もう腹腔鏡には戻れない」というのが率直な感想ですが、ロボット支援手術のさらなる洗練と発展を後進の

先生方に期待しています。

令和7年度(2025年度)から磐田市立総合病院に赴任いたします。これまで本学で培ってきた知識や経験の全てを、若い頃から私を育ててくれた地域のために捧げたいと思っております。素晴らしい上司・同僚・後輩に囲まれて、本当に忘れがたい幸せな時間を過ごさせていただきました。診療や研究においてさまざまな形でお力添えをいただいた方々に、あらためて深く感謝申し上げます。浜松医科大学の益々の発展を心より祈念し、筆をおきたいと思っております(まだまだメスは置きません 笑)。

(※令和7年3月退官時の職名で掲載させていただいております)



平成24年(2012年)医局対抗野球大会優勝！

“Stay hungry, Stay foolish”

下部消化管外科 病院准教授 倉地 清隆

この度、3月31日付で浜松医科大学外科学第二講座を辞し、4月1日より浜松赤十字病院外科へ赴任することとなりました。本院をはじめ、関連病院および開業医の皆さまには病院在職中は公私にわたり、格別のご高配を賜り心より厚く御礼申し上げます。

外科医として生き、海外生活したいとの願望のみで平成4年(1992年)本学卒業後外科学第二講座に入局、一般病院で各種修行を重ね、大学院から念願の留学生活後、38歳にして下部消化管外科医を今野弘之教授(元学長)より拝命いたしまして、あっという間の20年でした。“中年”易老学難成、一寸光陰不可軽損得やら利権やら報酬やらキャリアプランとかキャリアパスとか考えること(暇)もなく、目の前の事象をひたすらこなしてきた大学生活でした。得たものも多い一方で、救えない患者さんに対する医療の限界、大学人もしくは教育者、あるいは社会人としてふさわしくない業績の数々など反省点は枚挙に暇がありません。この場をお借りしお詫びを申し上げます。

さて、20年間同じ職場におりますと多種多様なものが見えてまいります。人間観察が趣味の私としては、“医療者の経年的内外面変化の社会性”という自由研究は非常に興味深いものがありました。人は曖昧で不確実な不

合理であり理論より感情論が優先する、そこがまたAIには決してまねできない魅力でもあります。冒頭の“Stay hungry, Stay foolish”はステイブ・

ジョブズの名言で私のほぼ座右の銘でもあります。もう一度初心に帰り、他人に惑わされず、自分の心に従い、実直貪欲に生きるということと理解しました。既知のとおり昨今の医療事情は大変厳しい状況にあり、今後も改善することはないと思います。どの医療機関も生き残りをかけての戦いがすでに始まっています。今回再度挑戦する機会をいただき大変感謝しております。とはいえ、一人では何事もできませんから今後とも皆さまのご協力ご指導をお願いいたします。最後にご厚情、ご指導いただきました先輩、同僚、後輩および患者さんに改めて御礼申し上げつつ、皆さまの益々の発展と浜松医科大学の栄光を祈念いたします。

(※令和7年3月退官時の職名で掲載させていただいております)



浜松医科大学 地域連携Webセミナーのご案内 (医療従事者向け)

診療科長の先生を中心に、本院の特長とも言える診療内容を紹介しております。
各医療機関の皆さまのご参加をお待ちしております。

| 開催回 | 開催日時 | 講師 | 申込締切 |
|------|-------------------------------|---|----------|
| 第46回 | 5月21日(水) 19時00分～ 20時00分 |  救急科 教授 渥美 生弘 先生 「地域包括ケアシステムにおける救急医療」 | 5月20日(火) |
| 第47回 | 6月25日(水) 19時00分～ 20時00分 |  外科学第一講座 教授 岡本 一真 先生 (演題未定) | 6月24日(火) |
| 第48回 | 7月16日(水) 19時00分～ 20時00分 |  眼科 教授 兼子 裕規 先生 「わかりやすく解説!よくある目の病気 ～高齢患者編Part1～」(仮題) | 7月15日(火) |

事前申し込み方法： メールまたは申し込みフォームにてお申し込みください。

詳細は本院ホームページ（地域連携Webセミナー）をご確認ください。

お問い合わせ： 地域連携Webセミナー担当事務局（地域連携室内）

電話：053-435-2637 FAX：053-435-2849（平日8：30～18：00）

E-mail：tiren-seminar@hama-med.ac.jp



イベントレポート

EVENT REPORT

2/2(日) 令和6年度

原子力災害医療防災訓練

当日は、住民避難が実施され、避難退域時検査場所で傷病被ばく者を1人確認した想定で、本院は患者の受け入れおよび診療の訓練を行いました。被ばく者の安全だけでなく、医療スタッフの安全も考慮しながらの診療でした。今後も、原子力災害医療に貢献していきます。



2/15(土) 令和6年度

アレルギー週間市民公開講座

静岡県アレルギー疾患医療拠点病院として毎年開催している市民公開講座には、およそ50人が出席。本院の医師3名による最新のアレルギー情報に出席者は真剣に耳を傾け、メモを取る様子や、質疑応答の時間には積極的に質問をされる姿も多く見られました。

外来診療日一覧

2025.04.1現在

受付時間 午前8時30分～11時 一般外来・専門外来
午後0時30分～2時 専門外来

○：午前
◆：予約のみ

休診日 土曜日および日曜日、祝日法による休日、12月29日～翌年1月3日

| 診療科名 | 診療日 | | | | | | | | | | 備考 |
|--|-----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|----------------------|
| | 初診 | | | | | 再診 | | | | | |
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
| 内科 受付電話 435-2632 ※神経・難病センター受付電話 435-2484 | | | | | | | | | | | |
| 一般内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 消化器内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 腎臓内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 木曜日：午後のみ 水曜日：午前のみ |
| ※脳神経内科 | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | |
| 内分泌・代謝内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 呼吸器内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 肝臓内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 循環器内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 火曜日：午後のみ |
| 血液内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | 木曜日：午前のみ |
| ※免疫・リウマチ内科 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 臨床薬理内科 | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | 要問い合わせ |
| IBDセンター | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | | ◆ | |
| 家族性消化器腫瘍外来 | | | | ◆ | | | | | ◆ | | 午後のみ |
| 脳神経病態外来 | ◆ | | | | | ◆ | | | | | 午後のみ：第1、2、3、5週 |
| 早期認知症外来 | | | | | ◆ | | | | | | 午後のみ |
| 感染症専門外来 | | | ◆ | | | | | ◆ | | | 午後のみ |
| 禁煙外来 | ◆ | | | | | ◆ | | | | | ※2021.7～休診 |
| ペースメーカ外来 | | | | | | | | | | | 予約のみ 要問い合わせ |
| ピロリ菌外来 | ◆ | | | | | | | | | | 午後のみ |
| 合併症外来 | | | | | | | | ◆ | | | |
| 精神科神経科 受付電話 435-2635 | | | | | | | | | | | |
| 初診・再診 | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 専門外来 摂食障害専門外来 | | | | | | | | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 小児科 受付電話 435-2638 | | | | | | | | | | | |
| 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 内分泌・遺伝 | | ◆ | | | | | | ◆ | | | |
| 内分泌 | | ◆ | | | | | | ◆ | | | |
| 循環器 | | | | ◆ | ◆ | | | | ◆ | ◆ | |
| 血液腫瘍 | | | | ※ | ※ | | | | ◆ | ◆ | ※初診は随時電話で |
| 免疫・アレルギー | ◆ | | | ◆ | ◆ | ◆ | | | ◆ | ◆ | |
| 神経 | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | |
| 腎臓 | ◆ | | | ◆ | ◆ | ◆ | | | ◆ | ◆ | |
| 新生児フォローアップ | | | | | | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | |
| 乳児検診 | ◆ | | | | | ◆ | | | | | |
| 長期フォローアップ外来 | | | | | | | | | ◆ | | 第4週のみ |
| 特殊予防接種 | | | | | | | | | | ◆ | |
| 小児外科 受付電話 435-2638 | | | | | | | | | | | |
| 初診・再診 | | ◆ | | ◆ | | ◆ | ◆ | | ◆ | | |
| 外科 受付電話 435-2641・2642 | | | | | | | | | | | |
| 心臓血管外科 | ○ | | ○ | ◆ | ◆ | ○ | | ○ | ◆ | ◆ | |
| 呼吸器外科 | | | ◆ | ◆ | ◆ | | | ◆ | | ◆ | |
| 乳腺外科 | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | | | ◆ | 水曜日：家族性乳腺腫瘍外来(午後) |
| 一般外科 | | | ○ | | ○ | | | ○ | | ○ | |
| 上部消化管外科 | | ◆ | ◆ | | | | | ◆ | ◆ | | |
| 下部消化管外科 | ◆ | | | | | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | |
| 肝・胆・膵外科 | | | | ◆ | ◆ | | | | ◆ | ◆ | |
| 血管外科 | | ◆ | | | ◆ | | | ◆ | ◆ | ◆ | 金曜日：下肢静脈瘤 |
| IBDセンター | ◆ | | | | | ◆ | | | | | |
| リンパ浮腫センター | | | | ◆ | | | | | ◆ | | |
| 専門外来 肥満減量外来 | ◆ | ◆ | | | ◆ | | | | | ◆ | |
| 緩和ケア外来 | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | |
| 脳神経外科 受付電話 435-2644 | | | | | | | | | | | |
| 初診・再診 | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | | ◆ | | ◆ | ◆ | |
| 整形外科 受付電話 435-2647 | | | | | | | | | | | |
| 初診・再診 | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | |
| 教授外来(脊椎) | ◆ | | | ◆ | ◆ | ◆ | | | ◆ | ◆ | |
| 骨粗鬆症 | | | | ◆ | ◆ | | | | ◆ | ◆ | |
| リウマチ | | | ◆ | ◆ | | | | ◆ | ◆ | | |
| 手・末梢神経 | | | ◆ | | | | | ◆ | | | |
| 脊椎 | ◆ | | | | | ◆ | | | | | |
| 腫瘍 | | ◆ | | | | | | ◆ | | | |
| 股関節 | | | | | ◆ | | | | | ◆ | |
| 肩関節 | | | | | ◆ | | | | | ◆ | |
| 膝関節・スポーツ | | | | | ◆ | | | | | ◆ | |
| 小児整形 | ◆ | | | | | ◆ | | | | | |
| ヘルニア | | | | | | | ◆ | | | | |

| 診療科名 | 診療日 | | | | | | | | | | 備考 | |
|---|----------------|---|---|---|---|----|---|---|---|---|--------------|---|
| | 初診 | | | | | 再診 | | | | | | |
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | | |
| 皮膚科 受付電話 435-2650 | | | | | | | | | | | | |
| | 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | |
| 専門外来 | アトピー性皮膚炎外来 | ◆ | ◆ | | | | ◆ | ◆ | | | | |
| | 脱毛症外来 | ◆ | | ◆ | | | ◆ | | ◆ | | | |
| | 乾癬外来 | | ◆ | | | | | ◆ | | | | |
| | 皮膚リンフォーマ外来 | | | | ◆ | | | | | ◆ | | |
| 泌尿器科 受付電話 435-2653 | | | | | | | | | | | | |
| | 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | | | |
| 専門外来 | 腎移植外来 | | | | ◆ | | | | ◆ | | | 医師交代制 |
| | 排尿障害外来 | | ◆ | ◆ | | | ◆ | ◆ | | | | |
| | 不妊症外来 | ◆ | | | | ◆ | ◆ | | | | ◆ | 月曜日：第1、3、4、5週のみ |
| | 腫瘍外来 | | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | | | |
| 眼科 受付電話 435-2656 | | | | | | | | | | | | |
| | 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | 火・金曜日：午前のみ |
| 専門外来 | 網膜変性外来 | | ◆ | | | | | ◆ | | | | |
| | 斜視・弱視外来 | | | ◆ | | | | | ◆ | | | |
| | ロービジョン | | | | | ◆ | | | | | ◆ | |
| | 神経眼科外来 | | | | | ◆ | | | | | ◆ | |
| | 角膜外来 | | | | ◆ | | | | | | ◆ | 第2週のみ（月により変更あり） |
| 耳鼻咽喉科 受付電話 435-2659 | | | | | | | | | | | | |
| | 初診・再診 | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | | |
| 専門外来 | 腫瘍外来 | ◆ | ◆ | | | | ◆ | ◆ | | | ◆ | |
| | 耳外来 | | ◆ | | ◆ | | | ◆ | | | ◆ | |
| | 睡眠時無呼吸・いびき外来 | ◆ | | | | ◆ | ◆ | | | | ◆ | |
| | 鼻副鼻腔・アレルギー外来 | ◆ | | | ◆ | | ◆ | | | | ◆ | |
| | めまい外来 | | | ◆ | | | | | | ◆ | | |
| 産科婦人科 受付電話 435-2662 ※女性医師ご希望の方はお申し出ください | | | | | | | | | | | | |
| | 産科 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | NIPT外来 |
| | 婦人科 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | 火曜日：3月11日まで |
| | 婦人科外来 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | 木曜日：3月13日から |
| 専門外来 | 産科外来 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | |
| | NIPT外来 | | | | | | | | | | ◆ | |
| | 腹腔鏡外来 | | | | ◆ | | | | | | ◆ | |
| | 漢方外来 | | | | ◆ | | | | | | ◆ | 第1、2、4週のみ |
| | 胎児診断外来 | | ◆ | | ◆ | | | ◆ | | | ◆ | |
| | 母親学級 | | | | | | | | | | | 予約制 |
| | 助産師外来 | | | | | | | | | | | 要問い合わせ |
| 乳腺予防ケア外来 | | | | | | | | | | | (午後には産科婦人科へ) | |
| ART室 受付電話 435-2664 | | | | | | | | | | | | |
| | 不妊外来 | | | | ◆ | | ◆ | ◆ | | ◆ | ◆ | |
| 放射線科 受付電話 435-2665 | | | | | | | | | | | | |
| | 放射線治療科 放射線治療外来 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | |
| | 放射線診断科 IVR外来 | | ◆ | | | | | ◆ | | | | |
| 麻酔科蘇生科 受付電話 435-2668 | | | | | | | | | | | | |
| | 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | |
| | いたみセンター | ◆ | | | | | ◆ | | | | | |
| リハビリテーション科 受付電話 435-2747 | | | | | | | | | | | | |
| | 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | 要問い合わせ 午前のみ |
| 専門外来 | 義肢・装具外来 | | | ◆ | | | | | ◆ | | | |
| | 嚥下外来 | | | ◆ | ◆ | | | | ◆ | ◆ | | |
| | 痙縮外来 | | ◆ | | ◆ | | | ◆ | | ◆ | | |
| | 高次脳外来 | ◆ | | | ◆ | | | ◆ | | ◆ | | |
| 形成外科 受付電話 435-2496 | | | | | | | | | | | | |
| | 初診・再診 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 木曜日：リンパ浮腫 |
| 歯科口腔外科 受付電話 435-2673 | | | | | | | | | | | | |
| | 初診・再診 | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | ◆ | | |
| 専門外来 | 唇顎口蓋裂外来 | | | | | | | | | | | 専門外来の診察日は不定期のため、歯科口腔外科外来受付電話にお問い合わせください |
| | 顎補綴 | | | | | | | | | | | |
| | 矯正歯科 | | | | | | | | | | | |

※市外からお電話の場合は、電話番号の前に市外局番（053）を付けてください。

浜松医科大学医学部附属病院